

JAMの主張

明日につながる総括を すべての組合員の想いに報いる

機関紙 J A M 2019 年 7 月 25 日発行 第 246 号

第 25 回参議院議員通常選挙におきまして、力強いご支援を頂き心より感謝申し上げます。

J A M が組織内国会議員を失い、政治的影響力が著しく減少する中で、雇用調整助成金の認定要件が厳格化される、あるいは年金問題に関する金融庁のレポートを受け取らないといった、改ざん・隠蔽・忖度政治の横行が行われています。政府与党の横暴を打破し、働く者の立場に立った真の働き方改革、安心安全な社会保障政策、更には「価値を認めあう社会へ」の実現をめざし、この選挙を組織の存亡を賭けた戦いと位置づけ、J A M 副会長である「田中ひさや」を擁立、J A M の議席奪還をめざしてきました。

選挙戦においては、プロジェクト Q と称した若手中心の戦術委員会を立ち上げ選挙戦のプランニングを行い、いわゆる T A N A 会を通じ、まずは「なぜ政治に取り組むのか」ということを職場組合員との対話を繰り返すことから始める戦略をとりました。ホームページや様々な選挙グッズに関しては、専門的知識を持つスタッフを迎え、これまでとは一線を画すデザインを心掛けました。統一地方選挙後は専従、非専従を問わず三役が自ら地方を回りオルグを徹底しました。私も多くの単組の皆様にお会いし直接お話を聞くことができました。

強力なご支援を頂いた基幹労連の皆様も「J A M 出身基幹労連代表」の候補者として、我々以上の取り組みを展開していただきました。

「田中ひさや」本人も 16 万キロを移動し、19 万人の皆様にお会いをし、直接お訴えを致しました。この間の候補者本人の献身的な努力は深い感動を与えてくれました。

そして、この文章を読んでいただいております職場・組合員の皆様にはこれまで以上の活動を、ご支援を、ご協力を頂きました。本人以上に悔しい思いをされておられるのは懸命にご支援を頂いた組合員の皆様であろうと思います。衷心より感謝と謝罪を申し上げます。

にもかかわらず我々は勝てなかった。なぜ勝てなかったのか？その答えを早急に見つけ出し、次の戦いに向け厳しい総括をしなければなりません。明日につながる総括をする。それが「田中ひさや」の献身的な努力と、この選挙戦を支えていただいたすべての組合員の皆様の熱い想いに報いる唯一の道であると考えています。ともに頑張りましょう。

J A M 会長 安河内賢弘